

藤沢市議会議長 佐賀和樹様

団体名：辺野古を止める！全国基地引き取り緊急連絡会

代表者：前田 みずほ

住所：藤沢市藤沢 1003-8 クリオ藤沢式番館 403



沖縄を「捨て石」にしない安全保障政策を求める意見書の提出を求める陳情

(陳情趣旨)

米軍統治下におかれた沖縄が日本国憲法の適用を求めて日本に「復帰」して今年で50年です。

しかし、日本の米軍専用施設の70%以上が国土面積0.6%の小さな沖縄に押しつけられていることで、沖縄県民の命と尊厳は激しく傷つけられており、沖縄では憲法が定める基本的人権が脅かされている状況が続いています。戦争の脅威が身近に感じられる今、沖縄を再び「捨て石」にするかのような安全保障政策は、決して許されるものではありません。

沖縄県民は、選挙や県民投票を含むあらゆる民主主義的方法を通して、このような政策の是正を求めてきました。2019年の辺野古県民投票でも、県民は明確に基地の押しつけにNOを示しました。しかし、日本社会はその声を無視し続けており、国連の人種差別撤廃委員会も、このような基地の集中を「現代的な形の人種差別」として政府に問題解決を求めています(2010年4月6日、国連文書番号 CERD/C/JPN/CO/3-6)。

歴史を振り返れば、日本は琉球を併合して以来、とざれることなく沖縄を事実上犠牲にする国策を続けてきたのだと言えます。沖縄戦では沖縄を「本土」防衛のための「捨て石」にしましたが、戦後も同様の構図を維持するからです。サンフランシスコ講和条約では、「本土」は平和憲法のもと主権を回復しますが、沖縄は「本土」から切り離され、米軍基地の島とされました。この時期、基地のない平和を願う「本土」の世論を背景に、多くの基地が「本土」から沖縄へと移設されて行ったことを私たちは忘れてはなりません。沖縄が日本に「復帰」した後も、沖縄の基地負担割合はむしろ高まりました。そして現在も、県民の民意を無視した辺野古新基地建設が強行され、南西諸島(琉球弧)全体の軍事化が進められています。

私たちが認識すべきは、このような沖縄を犠牲にする国策を支えてきたのは「本土」の日本人だということです。安全保障は国の専権事項と言われますが、今沖縄に基地が集中している大きな要因の1つに「本土」が基地の受け入れを拒否してきた事にあります。主権者である私たち「本土」の日本人が、民主主義のプロセスを通して、このような構造的差別を継続してきたことを自覚する必要があります。

私たちは、これまでの差別的な政策を沖縄県民に謝罪し、国策を方向転換させなくてはなりません。大多数の国民が日米安保条約の維持を望むのであれば、それを公平・公正に負担することは当然のことです。これまで沖縄に押しつけてきた基地は「本土」に引き取り、米軍基地問題は公平・公正に日本全体の問題として国民全体で議論し解決していくべきです。私たちが求めるべきは、何よりも、沖縄を犠牲にしない安全保障政策です。

以上のような観点から、喫緊の課題として、下記の事項について地方自治法第99条の規定による意見書を国および国会に提出されるように陳情します。

(陳情項目) 下記項目について国および国会に意見書を提出されるようお願いいたします。

1. 沖縄を「捨て石」にした差別的な安全保障政策をやめること
2. 辺野古新基地建設を断念すること
3. 普天間基地は「本土」に引き取り、日本全体で問題解決すること